科目区分	専門分野	授業科目	地域・在宅看護論概論
講師名		実務経験の有無	有
単位数(時間)	2単位(30 時間)	開講年次	1年次

目的: 地域で暮らす人々の生活や行われる看護の特徴を理解し、支援につなげる基礎的な能力を養う。
目標: 1 地域で暮らす人々の生活を理解し、健康との関連が理解できる。
2 地域で行われる看護の概要が理解できる。

授業計画

単元	時間	内 容
1 地域で暮らす人々の生活と健康	6	1 人々の暮らし 1)暮らしとは 2)生活者としての人間 3)健康の定義 4)健康と生活 2 地域・在宅看護の基盤となるもの 1)地域・在宅看護とは 2)地域・在宅看護の対象(個人・家族・集団・コミュニティ) 3)看護活動の場の広がり 3 地域での看護活動の変遷 4 地域・在宅看護活動に必要な基本理念 1)セルフケア理論 2)プライマリヘルスケア 3)ヘルスプロモーション 4)アドボカシー 5)行動変容 6)家族看護 7)ケアマネジメント
2 暮らしを基盤とした地域の特徴	18	1 暮らしと地域 ※1 1)地域の定義 2)人々の暮らす地域の多様性とその考え方 2 地域包括ケアシステムと地域共生社会 1)地域包括ケアシステムと社会資源 2)地域での生活を支える組織活動 3)看護の継続性(療養の場の移行に伴う看護) 4)多職種の機能と役割・協働・連携 5)看護職の役割
3 地域・在宅看護に関わる制度とその活用	2	1 地域・在宅看護にかかわる法律と施策 1)介護保険・医療保険制度 2)地域・在宅看護に関わる法制度
4 在宅看護における看護倫理	3	1 在宅看護の倫理的課題 1)在宅看護における権利保障 2)倫理的課題と自己決定
	1	試験
評価方法		筆記試験、レポート、グループワーク、参加状況、態度等

テキスト	医学書院　地域・在宅看護論〔1〕地域・在宅看護の基盤 医学書院　地域・在宅看護論〔2〕地域・在宅看護の実践
参考資料	ピラールプレス　看護師のための地域看護学 ナーシンググラフィカ　地域在宅看護論①　地域療養を支えるケア
履修上の 留意事項	予習・復習をして授業に臨むこと。 グループワークは積極的な参加姿勢で臨むこと。 提出物は提出日時を厳守すること。
備　考	※1 はフィールドワークを行う。 単元2　暮らしを基盤とした地域の特徴では、地域環境・地域での暮らしを知り、暮らしと健康のつながりなど暮らしを支える看護の基礎ついての理解ができるよう地域包括ケアシステムの構築・推進を念頭にグループ別にフィールドワークを行い、グループ発表で結果を共有する。

科目区分	専門分野	授業科目	地域・在宅看護論援助論Ⅰ
講師名		実務経験の有無	有
単位数(時間)	1単位(15 時間)	開講年次	2年次

目的: 多様な場で提供される看護を理解し、地域での支援を行うための看護技術の知識を養う。
目標: 1 地域・在宅看護の提供方法と看護師の役割が理解できる。
2 継続看護の必要性を理解し、様々な職種や関係機関との連携が理解できる。
3 在宅看護における安全管理について理解できる。

授業計画

単元	時間	内 容
1 在宅看護の提供方法と対象への看護	2	1 広がる看護の対象と提供方法 1)看護の実践方法の広がり(外来、訪問、施設、地域) 2)地域・在宅看護における看護師の役割 2 地域・在宅看護の対象への看護 1)人々のニーズに応える看護 2)地域における家族への看護
2 地域・在宅看護における継続看護とチームケア	6	1 地域・在宅看護のマネジメント 1)マネジメントとは 2)多様な場におけるマネジメント(療養の場の移行に伴う看護) 2 多職種連携・多職種チームにおける協働 1)多職種チームでかかわる意義 2)多職種チームとの連携・協働の実際 3)看護師の役割
3 地域・在宅看護における療養環境調整の実際	6	1 地域・在宅看護における療養環境 1)療養環境のアセスメント 2)療養環境調整の実際 2 地域・在宅看護における安全対策 1)暮らしを取り巻くリスク 2)安全確保の方法と対策 3)医療事故の種類と対策 4)災害への対策
	1	試験

評価方法	筆記試験、レポート等
テキスト	医学書院 地域・在宅看護論〔1〕 地域・在宅看護の基盤 医学書院 地域・在宅看護論〔2〕 地域・在宅看護の実践
参考資料	ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論①地域療養を支えるケア
履修上の留意事項	予習・復習をして授業に臨むこと。 提出物は提出日時を厳守すること。
備 考	

科目区分	専門分野	授業科目	地域・在宅看護論援助論Ⅱ
講師名		実務経験の有無	有
単位数(時間)	1単位(30 時間)	開講年次	2年次

目的: 在宅療養を支える訪問看護について理解し、居宅における看護の役割を学ぶ。
目標: 1 訪問看護ステーションの概要及び活動内容を理解できる。
2 訪問看護制度に基づく看護について理解できる。
3 訪問看護の対象の特徴を理解できる。
4 居宅におけるケアマネジメントや社会資源の活用方法について理解できる。

授業計画

単元	時間	内 容
1 訪問看護の概要と在宅看護に関わる制度	15	1 訪問看護サービスのしくみと提供 1)訪問看護とは 2)訪問看護の創設と発展の経緯・現状 3)訪問看護制度(在宅看護に関わる制度とその活用) 4)訪問看護ステーションのしくみ (1) 開設基準と従事者 (2) 法に基づく訪問看護事業 (3) 訪問看護利用までの流れと費用 (4) 訪問看護サービス提供
2 訪問看護の対象への看護の実際	10	1 訪問看護の対象の特徴 1)対象の多様性 2)対象の個別性を尊重した看護 2 家族への支援 1)家族を支援する基本的姿勢 2)療養の場における家族の捉え方 3)在宅療養者と家族への看護
3 居宅におけるケアマネジメントと社会資源の活用	4	1 居宅におけるマネジメントとその実際 2 社会資源の活用の実際
	1	試験

評価方法	筆記試験
テキスト	医学書院 地域・在宅看護論〔1〕 地域・在宅看護の基盤 医学書院 地域・在宅看護論〔2〕 地域・在宅看護の実践
参考資料	ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論① 地域療養を支えるケア ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論② 地域療養を支える技術
履修上の留意事項	予習・復習をして授業に臨むこと。 提出物は提出日時を厳守すること。
備 考	

科目区分	専門分野	授業科目	地域・在宅看護論援助論Ⅲ
講師名		実務経験の有無	有
単位数(時間)	1単位(30時間)	開講年次	2年次

目的: 在宅看護における援助を実践するための基礎的知識と技術を習得する。
目標: 1 在宅看護活動に必要なコミュニケーション技術が理解できる。
2 在宅看護に必要な看護技術を理解し、基本技術ができる。
3 対象者の病状経過の予測や予防的支援に関する基本的技術ができる。

授業計画

単元	時間	内 容
1 在宅で求められる看護技術	29	1 在宅看護活動を支えるコミュニケーション 1) 訪問看護におけるマナー 2) セルフケアを支える対話 2 在宅看護に必要な病状・病態の予測と予防 1) ヘルスアセスメント 2) フィジカルエグザミネーション 3) 健康行動理論・セルフケア理論の活用 3 呼吸・循環に関する在宅看護技術 1) 呼吸・循環のアセスメントと援助 2) 在宅酸素療法(HOT) 3) 人工呼吸療法(NPPV・HMV) 4 食生活・嚥下に関する在宅看護技術 1) 食生活・嚥下のアセスメントと援助 2) 経管栄養法(経鼻・胃瘻) 3) 在宅中心静脈栄養法(HPN) 5 排泄に関する在宅看護技術 1) 排泄のアセスメントと援助 2) おむつ交換・摘便 ※1 3) 膀胱留置カテーテル 4) ストーマ管理 6 移動・移乗に関する在宅看護技術 1) 在宅での移動・移乗に関するアセスメントと援助 2) 福祉用具の活用 7 清潔・衣生活に関するアセスメントと援助 1) 清潔のアセスメントと援助 2) 入浴・清拭 3) 褥瘡の予防とケア 8 疼痛緩和に関するアセスメントと援助 1) 苦痛と安楽のアセスメント 2) 苦痛・安楽への援助
	1	試験

評価方法	筆記試験
テキスト	医学書院 地域・在宅看護論〔1〕 地域・在宅看護の基盤 医学書院 地域・在宅看護論〔2〕 地域・在宅看護の実践 インターメディカ 写真でわかる訪問看護アドバンス
参考資料	必要に応じて適宜紹介する。
履修上の留意事項	予習復習をして臨むこと。 演習等、積極的な姿勢で参加すること。
備 考	※1 は演習を行う。

科目区分	専門分野	授業科目	地域・在宅看護論援助論Ⅳ
講師名		実務経験の有無	有
単位数(時間)	1単位(30時間)	開講年次	2年次

目的:看護の介入時期と看護の継続性について学び、在宅看護における対象別看護の特徴を理解する。
目標: 1 在宅看護介入の目的と方法特徴について理解できる。
2 対象別看護の特徴と支援方法について理解できる。
3 訪問看護における看護過程の特徴が理解できる。

授業計画

単元	時間	内 容
1 地域・在宅における時期別の看護	10	1 病状経過の時期別に応じた看護と継続性 1) 健康な時期 2) 外来受診期 3) 入院時 4) 在宅療養準備期 5) 在宅療養移行期 6) 在宅療養安定期 7) 急性憎悪期 8) 終末期(グリーフケアを含む)
2 対象に応じた在宅看護(事例)	8	1 医療的ケア児への看護 2 精神疾患の療養者への看護 3 難病(ALS)を持つ療養者への看護 4 独居の療養者への看護
3 訪問看護を利用する対象者の看護過程	11	1 訪問看護の看護過程の展開 ※1 1) 看護過程展開の特徴 2) ICF の概念 3) 訪問看護利用者の全体像の把握と臨床判断能力
	1	試験

評価方法	筆記試験、レポート
テキスト	医学書院 地域・在宅看護論〔1〕 地域・在宅看護の基盤 医学書院 地域・在宅看護論〔2〕 地域・在宅看護の実践
参考資料	インターメディカ 写真でわかる訪問看護アドバンス 必要に応じて適宜紹介する。
履修上の留意事項	予習・復習をして授業に臨むこと。 提出物は提出日時を厳守すること。
備 考	※1 は演習を行う。 単元3 訪問看護の看護過程の展開では、実際に訪問する場面でのコミュニケーションや援助を通して、訪問看護における臨床判断能力や意図的な観察の必要性が理解できるよう、グループに分かれてロールプレイを行う。

地域・在宅看護論実習

目　的

地域で暮らすあらゆる発達段階や健康段階にある対象の生活背景や地域における保健・医療活動を理解し、健康の保持増進や健康状態に合わせた在宅看護を実践するための基礎的能力を養う。

目　標

1　人々の暮らしを知り、対象の発達段階や健康段階による身体的･心理的･社会的な状況を理解できる。
2　地域の保健・医療を支える施設の特徴と看護の役割を理解できる。
3　在宅における健康障害のある対象への看護活動の場を理解し、対象の意思を尊重する看護を理解できる。
4　対象の障害に応じて切れ目のない保健活動や看護活動の場を理解し、対象の意思を尊重する看護を理解できる。
5　多職種連携のあり方を理解し、社会資源の活用と地域における看護の役割について理解できる。
6　専門職として倫理観をもち、責任ある行動がとれる。
7　学習の学びと事故の課題が明確にできる。

地域・在宅看護論実習Ⅰ　〔２単位　90 時間〕

目 的

在宅で療養する対象（療養者・家族）とその対象を取り巻く環境を理解し、対象の健康状態や生活背景に応じた看護が実践できるための基礎的能力を養う。

目標

1　訪問看護ステーションの概況及び特徴を知り、役割・機能が理解できる。
1）地域の特性をふまえた訪問看護ステーションの特徴、利用の仕組みや手続きが理解できる。
2）訪問看護ステーションの利用状況、対象の概況からニーズを把握し、訪問看護師の役割を理解できる。

2　訪問看護を受けている対象の状況と生活状況に合わせた看護の必要性が理解できる。
1）対象の身体的・精神的・社会的(住居環境・介護状況)状況が理解できる。

２）対象の療養生活には、健康障害や多様な家族形態や価値観、生活背景が影響することを理解できる。
３）療養者の健康状態や個別性に合わせた援助の工夫や配慮が理解できる。
４）家族の健康状態や介護状況に合わせた援助の必要性が理解できる。

３　訪問看護を受けている対象を尊重した援助関係形成の重要性が理解できる。
１）対象の状態や反応の意味を、生活習慣や価値観、現在の健康状態からありのままに理解することができる。
２)対象の意思を尊重する関わりが理解できる。

４　訪問看護を受けている対象の状態に応じた安全管理の必要性が理解できる。

５　在宅で療養する対象の生活の質（ＱＯＬ）の維持・向上のための社会資源の利用の実際や在宅看護における多職種との連携を理解できる。
１)対象の社会資源利用の実際を知り、様々な社会資源の支援を受けながら在宅での療養生活が支えられていることが理解できる。
２)施設内看護と訪問看護との連携や継続看護の必要性を理解できる。
３)対象の生活に必要な関係職種との連携・協働における訪問看護の役割について理解できる。

実習時期及び期間
２～３年次　１１日間

地域・在宅看護論実習Ⅱ　〔２単位　90 時間〕

目　的
地域で暮らすあらゆる発達段階や健康状態にある対象者の様々な暮らし方を知り、地域の支援体制の実際を理解する。また、人々の様々な暮らしの現状や支援の実際から今後の看護のあり方について学ぶ。

市町村(地域保健)に関する実習

目的
地域のあらゆる発達段階および健康段階にある対象への健康保持増進に向けた保健活動が理解できる。

目標

1 市町村における対象の生活環境・健康課題を理解できる。
2 市町村における地域保健の概況および役割機能や保健師の活動と役割を理解できる。
1）地域保健の概況を知り、市町村における役割機能を理解できる。
2）参加した保健事業から発達段階に合わせた保健師の役割を理解できる。
3 関係機関との連携・協働の在り方を理解できる。
1）各関係機関・職種との連携の実際を知り、対象の健康保持増進のための切れ目のない支援の必要性を理解できる。
2）連携・協働における看護職の役割について明らかにすることができる。

子ども子育て支援に関する実習

目的

小児とその保護者の暮らしを知り、地域で行われる育児や発達を促す子育て支援活動を学ぶ。

目標

1 子ども子育て支援施設を利用する目的を知り、施設の役割と機能を理解できる。
2 子ども子育て支援施設を利用している小児の特性と健康的側面や精神的側面の課題を知り、子育てをする家族が抱える問題や課題に合わせた援助の必要性を理解できる。
1）事業を利用する小児の特徴（身体・心理）を理解できる。
2）子育てをする家族が抱える思いや問題・課題を理解できる。
3）小児とその家族の健康な暮らしを支える援助を理解できる。

地域包括支援センターに関する実習

目的

高齢者の暮らしを地域でサポートするための地域包括ケアシステムの実際を理解する。また、地域で健康問題を抱えながら生活する高齢者とその家族の現状を理解し、高齢者の在宅療養における看護の役割を考察する。

目標

1 地域包括支援センターを利用する対象や利用する目的を知り、支援の必要性と問題解決の方法を把握することができる。
2 地域包括支援センターの役割と地域における看護のあり方について説明することができる。

＜地域包括ケアシステムにおける介護老人保健施設実習＞

目標

1 介護保健の役割と看護の役割を理解できる。
2 地域で暮らす対象の健康の保持と QOL の維持・拡大を図るための生活支援の実際を理解できる。

＜地域包括ケアシステムにおける介護老人福祉施設＞

目標

1 介護老人福祉施設の特徴と役割を理解できる。
2 施設を利用する対象の人生経験や価値観、家族背景を理解し、対象が抱える問題や課題に目を向け、対象の健康の保持と生活を支えるための援助を実施できる。
1）対象の価値観や個別性を尊重した日常生活援助が実施できる。
2）対象の加齢変化から予測・予防看護の必要性を理解し、事故防止の援助が実施できる。
3）対象の抱える家族背景における問題や課題を理解できる。
3 対象の安心した暮らしを支えるための多職種連携の必要性を理解できる。

実習時期及び期間

３年次　１２日間